

KWANSEI GAKUIN
SCHOOL OF THEOLOGY



関西学院大学

神学部報

No.119 2022.6

Contents

| | |
|---------------------------------|-----|
| 2022年度始業礼拝メッセージ(神学部長)..... | P.1 |
| 副学部長あいさつ(教務担当・学生担当)..... | P.1 |
| 留学期間・始業講演報告..... | P.2 |
| 2022年度の神学部の教育..... | P.2 |
| 関西学院院長に就任して..... | P.3 |
| 新任あいさつ..... | P.3 |
| from the Classroom..... | P.3 |
| ディアコニア・プログラム報告..... | P.4 |
| 学生の声 神学部で学ぶ..... | P.4 |
| オンライン留学報告..... | P.4 |
| 第56回 神学セミナー報告..... | P.5 |
| 第23回 キリスト教教育研究集会報告..... | P.5 |
| MSセミナー2022ご案内..... | P.5 |
| 『神學研究』69号のご案内..... | P.5 |
| 2023年度神学部・神学研究科入学試験ご案内..... | P.6 |
| 第39回 関学ユースキャンブ on キャンパスご案内..... | P.6 |

Instagram



HGTHEOLOGICA

発行 関西学院大学神学部広報委員会
〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155
電話 (0798) 54-6200 FAX (0798) 51-0936
https://www.kwansei.ac.jp/s_theology/

Facebook





2022年度 始業礼拝メッセージ 「希望の説明としての神学」

神学部長 土井 健司

4月8日 於：関西学院会館 レセプションホール

新しく4月から2022年度がはじまりました。2020年度のはじまりはコロナ禍のため惨憺たるもので、連休明けからオンライン授業。21年度もコロナ禍が続き、対面も含めつつオンライン授業。22年度はコロナ禍が明けたわけではないものの、ようやく従来の授業に戻りました。感謝の気持ちで一杯です。

「あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい」(第一ペトロ3:15)。この聖句には、神学の三つの要素が語られています。

まず神学とは、「あなたがたの抱いている希望」を対象とします。イエスの説いた福音、信仰者の希望というのについて神学は語るものだという事です。第二に、それは「説明」「弁明」であり、言葉や理性をもって営まれるということです。神学はしっかりした論理と言葉による学問ということです。第三は「説明を要求する人」に向かったものです。言い換えれば

内向きの閉じたものでなく、外向きの開いたものであるということです。つまりイエスの説いた福音、希望について、言葉や論理を用いて、内向きに閉じるのではなく、外に向けて開かれた議論を展開すること、神学とはこういうものだという事になります。

これはミニマムな定義であって、さらに様々なものが加わって展開します。たとえば私の担当する歴史神学の場合、古代キリスト教史をはじめ、中世、宗教改革といった各々の時代と地域があり、またヨーロッパ文化、思想、芸術も入ってきます。

さて、外に向かう開かれた議論について、最近気になっているのは「光」というテーマです。

19世紀までの古典物理学では、まずニュートンが光を粒と考えたのに対して、19世紀初めにトマス・ヤングが「波」であることを実証し、さらにマクスウェルが光は一定範囲の波長をもった電磁波の一種であることを明らかにしました。しかし20世紀のはじめに光電効果からアインシュタインが再び「粒」としての光子を論じ、

現代物理学では光は「粒」であり「波」であるということに落ち着いています。このことは何度も改良され繰り返された二重スリット実験でも確認されてきました。波であり粒であるという分かりにくさは、恐らく私たちの認識の仕組みに限界であって、私たちは私たちにしかな理解できないからだと言われます。

キリスト教には、神は光だという命題があります。しかし現代の科学技術はこの「光」を使ってさまざまなものを製品化します。たとえば光ファイバーを使って通信に利用する等、もはや現代物理学では「光」は人間によって使用され、利用される物質の類となっています。「神は光である」とは何でしょうか。物質としての光でなく、ただのファンタジーでもないなら、「神は光である」をどのように説明したらよいのでしょうか。

神学はもっともっとさまざまなテーマを取り上げ、議論を深める必要があります。今年度も神学に関わる教育と研究に真摯に取り組んで参りたいと思います。



あいさつ

副学部長(教務担当) 小田部 進一

21世紀の人類は、環境問題、自然災害、そして戦争や紛争とそれに伴う難民支援の問題など、根本的な危機にさらされ続けています。この危機の時代に聖書とキリスト教の歴史から何を学ぶことができるのか、神学は何を語り、実践へとつなげていくことができるのか、私たちは問われています。4月からの授業は、原則対面で実施されます。神学部の教室で、キリスト教の信仰と思想を土台として、人間と社会をめぐる根源的な問いを一緒に探求していきたいと思ひます。今年度も学生たちの学びが充実したものとなることを願っています。



あいさつ

副学部長(学生担当) 加納 和寛

コロナ禍の影響が続いた2021年度中、大学では学生相談室の利用が大幅に増加しました。新型コロナウイルス感染症そのものも不安要素の一つでしたが、他者との交流が制限されたことで、孤立感や漠然とした不安感もより強まったようです。

神学部では少人数であることの強みを活かし、これからも学生一人ひとりを丁寧に見守り続けていきたいと思ひます。依然として不安は残りますが、私たちには希望があります。「希望はわたしたちを欺くことはありません」(ローマ5:5)。学生たちが希望を持って学業に励めるよう、皆さまのお祈りをどうぞよろしくお願ひいたします。

留学期間・始業講演報告

岩野 祐介 教授



2021年度、留学期間を与えられていました。大韓民国、ソウル市の監理神学大学 Methodist Theological University へ留学予定でした。監理教とはメソジストの漢語訳で、関西学院と同じメソジストの学校であり、協定を結んでいます。

しかし、私の希望に反して2021年度の間、とうとうコロナウイルス感染症は治まらず、結局、韓国には行けませんでした。

韓国に行くことができれば、キリスト教的な「義」の受容を、日本と韓国とで比較して学んでみたいと考えていました。神の義というとき、「義」に漢語、儒学的な「義」の意味の影響はなかったのか?ということに興味があるからです。「愛」の意味合いにキリスト教が与えた影響に比して、義に関する研究は少ないように思います。そして儒学的概念の理解においては、韓国の研究者の方が圧倒的に日本より深いのではないかと思います。

4月8日(金)の始業講演では、「内村鑑三の弟子、斎藤宗次郎-日本キリスト教史における信徒のはたらき」というタイトルでお話させていただきました。たとえば義のような教えが宣べ

伝えられるとき、牧師や神学者など指導的立場の人々の理解も重要ですが、それを教会員や信徒、弟子がどう受け止めたのか、ということも重要です。教会、信仰共同体は指導者だけで成り立つものではないからです。

斎藤宗次郎は内村鑑三と彼の周辺のこと、また弟子としての自分の生活史について驚くほど詳細な記録を残している人物です。内村自身が文章化しなかった内容についても記されていますし、集会の様子などが詳しくわかる点も興味深いものです。その記録は、近年『聴講五年』(教文館、2018年)『内村鑑三先生の足跡』(同、2021年)として復刻刊行されています。私もこの復刻に関わらせていただきました。

斎藤の内村に対する敬愛・情熱には、率直に言って理解しにくい面もあります。インテリ、学者的指導層の弟子たちとは違う視点で、身近に見た内村像を、記録しておきたい思いがあったのであろうかとも思いますが、これら資料も活用しつつ、師の教えが弟子、聴衆にどう受け止められ、受け継がれていったのか、考えていきたいと思っています。



2022年度の神学部の教育

副学部長(教務担当) 小田部 進一 教授

春の陽光が窓から差し込む神学部チャペルで、4月2日(土)、新入生32名による宣誓式が執り行われました。入学式後の数日間、新入生は新入生オリエンテーションに少し緊張した面持ちで臨みました。今年は感染対策をとりながらではありますが、他の建物にある大教室ではなく、神学部の教室で実施することができました。神学部のカリキュラムの特徴や履修の仕組み、そして学生生活上の注意や大学による支援の仕組み等について説明が行われました。天候にも恵まれ、上級生の案内でキャンパスツアーも行われました。近年は、デジタル化が進み、



4/5(火) キャンパスツアーの様子

様々な手続きや確認がインターネットを通じて行われますが、最近の学生にとっては大きな問題ではないようです。

2022年度の学内の活動制限レベルには5つのレベルが

あります。休業要請下で原則オンライン授業となるレベル5、教室収容定員を2分の1以下とし対面とオンライン授業を組み合わせるレベル4、そして、教室収容定員通りに原則対面で授業を行うレベル3からレベル1までです。今学期はレベル2でスタートしたとは言え、感染状況の推移を注視しつつ、教員も学生もマスクを着用するなどの感染対策を取りながら授業に臨んでいます。

4月は暖かな気候に恵まれ、時計台前の中央芝生も神学部校舎も笑顔で語り合う学生たちで溢れ、チャペルも毎日対面で実施され、再びコロナ禍以前の姿を取り戻しつつあるように思われます。しかし、世界は依然として感染症、環境破壊、そして悲惨な戦争といった危機に直面しており、これらの課題が教室の中での神学の学びに新たなリアリティを与えています。この時代の教会に仕える伝道者の育成、そして、キリストの福音に照らして社会に奉仕する人材の育成を神学部の教育は目的としています。2022年度の新入生を迎え、新しい学びの共同体として始動した神学部の歩みを、今春も祈りの内に覚え、ご支援をお願い申し上げます。

関西学院院長に就任して 中道 基夫 教授



この度、関西学院第18代院長を拝命いたしました。神学部からはW.R.ランバス初代院長、吉岡美国第2代院長、J.C.C.ニュートン第3代院長、H.W.アウターブリッジ第7代院長、山内一郎第13代院長が就任し、私で6人目となります。関西学院のキリスト教を守り、導いてきた院長職を継ぐものとして身が引き締まる思いです。

コロナ禍、ウクライナへの軍事侵攻と世界を揺るがす出来事が起こり、それが瞬く間に私たちの個人的な生活にまで影響を及ぼす時代になりました。その中で、世界中にネットワークを持つキリスト教に連なる関西学院が何を発信し、何をすべきなのかが大きく問われています。

これからいったい何ができるのか分かりませんが、ランバス宣教師の宣教の思いをしっかりと引き継いでいきたいと願っています。どうぞこれまで同様ご支援、お祈りくださいますようお願いいたします。

新任あいさつ 森本 典子 専任講師



4月から専任講師としてディアコニア・プログラム関連の授業を担当する森本典子と申します。1986年に関西学院大学神学部を卒業し、大阪・釜ヶ崎にあるアルコール依存症の方々の通所施設、喜望の家に就職しました。その後、縁あってデンマークに移住し、9年半を過ごしました。その間に

ディアコニアとしての教育を受け、デンマークのディアコニア共同体のメンバーとなり、デンマーク国民教会で2年間働きました。家族の都合で京都へ戻り、再び喜望の家でパート職員とし

て働く傍ら、ディアコニアの研究を始めました。2018年、同志社大学神学研究科にデンマークのディアコニアに関する博士論文を提出しました。16歳の時にディアコニアという言葉に出会ってから40年以上が経ちましたが、いまだに新しい発見をしています。

現在は、社会的弱者と呼ばれる人々を「奉仕の対象」とせず、社会に「公正」をもたらすことを目指す「預言者的ディアコニア」という概念を軸として日本のキリスト教会の社会における課題への取り組みについて研究をしています。

授業を通して「奉仕」や「社会福祉」だけではないディアコニアについて学生の皆さんと学びを深めたいと思っています。

from the Classroom

新約聖書入門I

あづま
東 よしみ 准教授

「新約聖書入門I」は1年生の必修の授業です。私は学部時代に新約聖書の入門科目を受講したことで、新約聖書学という学問と出会いましたし、アメリカ留学中はこの科目のTAを務めました。この授業は私にとって特別な意味をもち、毎年、この授業で新生と出会うのを楽しみにしています。熱心な他学部の受講生も多く、毎年雰囲気も異なるのも新鮮です。

この授業の目的は、新約聖書の内容と形式上の特徴、その歴史的背景を理解し、新約聖書の釈義の基礎となる知識を習得することです。授業は講義形式で行っており、文書の基本的な情報を確認した上で、いくつかのテーマに沿って文書の内容を概観しています。入門的な内容が大半ですが、専門的な内容も扱っています。毎回の講義で扱う情報量が多いため、コロナ禍で完全オンラインとなった2020年度以降は、講義原稿もLUNA(教授者-学習者支援システム)にアップし、学生が講義内容を復習できるようにしています。

コロナ禍以降、これまで授業時間内に行っていた小テストをLUNA上のオンライン実施に変えました。これにより、学生の授業外の学習時間が増え、授業時間に余裕が生まれました。授業では、質疑応答により多くの時間を使い、また、小テストに備えるための復習の時間を新たに設けました。講義内容の重要点を理解できているか、なるべく多くの学生と口頭でやり取りしながら確認しています。

今年度は3年ぶりに完全に対面で授業を実施しており、学生の顔を見て授業ができる喜びを感じています。これからも様々な工夫をして変化を加えながら、新約聖書の奥深さを伝えられる授業にしたいと思います。



ディアコニア・プログラム報告

森本 典子 専任講師

神学部設立125年を記念し、「共に歩み、仕える人」を育成し、社会福祉の現場や教会に送り出すために開始されたディアコニア・プログラムも7年目を迎えました。

ディアコニア・プログラムではディアコニアの基礎、キリスト教の社会活動、人権、社会実習など、キリスト教の社会における役割を多面的に学び、体験します。そしてプログラムの中心となるディアコニア・ワークショップでは受講生が各自のテーマを設定し、2年をかけてそのテーマに関して基本的な知識を習得し、実践現場でのインタビューや授業でのディスカッションをもとにレポートを作成した上で成果発表会を開催します。2022年1月6日(木)には5期生の4人がそれぞれ「高齢者への寄り添いについて」、「人が生きるために必要である教会という場について」、「共存について」、「児童虐待の問題と癒しの希望」について、2年間で習得した成果を発表しました。教会で、福祉の現場で、人と共にあることの意義を学ぶ機会をこれからも提供できればと願っています。

学生の声 神学部で学ぶ



キリスト教伝道者コース3年 松隈 みなり

Q1. 神学部に入學したきっかけは？

私は牧師家庭で生まれ育ち、幼いころから教会やキリスト教と関わってきました。そのため自分にとって身近なキリスト教を深く理解することで、自分自身や周りの環境、世の中を見つめるための指針ができるのではないかと考えました。

また神学部で、キリスト教以外の宗教やエキュメニズムについての理解を深めることで、他者理解や異文化共生への歩みを進めたいと考え、神学部に入學しました。

Q2. 現在神学部で興味を持って学んでいることは？

現在は新約聖書学のゼミで、平和学について学んでいます。キリスト教の視点からアメリカにおける人種差別について学びを深めています。また宗教間の対話や異文化の共生について興味を持ち、「キリスト教とアジアA・B」などの授業でキリスト教以外の宗教について学んでいます。

Q3. 将来の夢や目標は何ですか？

神学部で学んだ他者理解や異文化共生の精神を基に、

日本における外国人への差別問題の解決に貢献したいと考えています。そのために人々の日常生活に即し、他者に寄り添いサポートするような仕事がしたいと考えています。また神学をはじめとする学問や英語のスキルなど、大学生活で得た経験を武器にして社会で活躍していきたいと考えています。

Q4. 神学部生、神学部入學を目指している受験生に対してメッセージをお願いします。

大学生活は時間の面で自由が多く、その分自分自身と深く対話ができる貴重な機会であると実感しています。特に神学部でキリスト教や神について学ぶことは、クリスチャンにとってもノンクリスチャンにとっても、自己理解を促す大きな力になります。キリスト教や神という抽象的で簡単には理解できない物事について、神学部生のみなさんと充実した環境で真剣に考えることのできる機会に感謝しています。

神学部入學を目指している受験生のみなさんは、大学生活に多少の不安はあると思います。神学部は学生の学びや新しい経験への意欲を受け止め、寄り添ってもらえるところです。安心して楽しい大学生活を送ってください。

オンライン留学報告

キリスト教思想・文化コース4年 森 悠華

2021年8月30日(月)～9月10日(金)にアイルランドのダブリンシティ大学のオンライン留学プログラムに参加しました。参加したきっかけは、コロナ禍で現地に行くことができない代わりに、本来の留学よりも比較的安い費用で現地の方の授業を受けられる、という点に惹かれたことです。この留学プログラムは2週間毎日あり、現地の大学の先生とのやりとりをすべて英語で行うので、普段英語を使わない私には新鮮でとても良い経験になりました。話す言語もすべて英語なので、たった2週間ではありますが参加する前に比べると格段に頭の中で英語を構成する力がついたと思います。

授業の形態としては、週に3日、関西学院大学や他大学の学生を含む約20人と一緒に、オンラインで現地の先生の講義形式の授業を受けました。また、週に2日は、ディスカッション形式の授業があり、これにはレベル別に分けられた関西学院大学の約15人の学生と現地の先生方、現地の学生2、3人が参加しました。現地の学生とは、好きな映画の話などプライベートな話題も話すことができ、堅苦しくなくてとても楽しかったです。

このプログラムを受けてから私の中で英語を勉強するモチベーションが上がり、英語の勉強を継続できるようになりました。4年生になった今でも英語の勉強を毎日続けています。このプログラムを受けることによって英語のテストの点数に直結するというものではなく、結局は自分次第ではありますが、少しでも迷っている方がいたら是非参加をお勧めします。

第56回 神学セミナー報告 加納 和寛 教授

2021年度の神学セミナーは、「災害とキリスト教」のテーマで2022年2月21日(月)に西宮上ヶ原キャンパスF号館を会場にして、対面・オンラインのハイブリッド形式で開催されました。出席者は計79名、うち対面参加が36名、オンライン参加が43名でした。

主題講演は本学社会学部の金菱清教授が「呼び覚まされる霊性の震災学」と題し、東日本大震災での死者の「記憶」について、その受容の実態調査をもとに講演されました。

神学講演では芦名定道教授が「現代世界における災害の形」について環境問題・哲学・キリスト教思想から教会現場まで縦断して話されました。



主題講演：金菱 清 教授

また小田部進一教授は「戦災の記憶と想起」として、特に第二次世界大戦中のハンブルク大空襲の記憶の仕方について取り上げられました。

現場報告では日本基督教団川内教会の日下部遣志牧師が、ここ数年にわたり九州で相次いだ自然災害に対する教会・教区の取り組みを紹介され、日本基督教団三津教会の森分望牧師は、教会による子ども食堂をはじめとする地域活動の様子をオンラインでプレゼンテーションされました。



現場報告：日下部 遣志 牧師



現場報告：森分 望 牧師

前回からやむなくハイブリッド形式で行っていますが、遠方の参加者にはたいへん好評をいただき、神学部と外部との新しい交流のあり方を実感しております。セミナーの内容は例年通りブックレットにまとめて出版される予定です。

第23回 キリスト教教育研究集会報告

2021年12月28日(火)10:00~15:30

関西学院大学高等部 静修室

主 題：『『人間の尊厳』の神学的考古学
— その最古層にあるもの』

講 演：土井 健司
(関西学院大学神学部長)

現場報告：澁谷 実季
(日本基督教団 毛呂教会 牧師)

参加人数：20名(内Zoom参加2名)

MS セミナー 2022 ご案内

「MSセミナー2022」は8月23日(火)~25日(木)に開催される予定です。神学部・神学研究科を卒業・修了し、2022年度に教会の現場で働いて5年目、10年目を迎えた方に既にご案内いたしましたが、万が一連絡が来ていない場合は下記へご連絡ください。すぐにご案内させていただきます。

関西学院大学 神学部補佐室

TEL.0798-54-6207(FAX.0798-51-0936)

E-mail: thhosa42@kwansei.ac.jp

<牧会講演>

山田 謙(日本基督教団 仙台五橋教会 牧師)

池上 信也(日本基督教団 犀川教会 牧師)

<神学講演>

芦名 定道(関西学院大学神学部教授)

『神学研究』(69号)のご案内

頒布につきましては、神学研究会までお問い合わせください。

論文(査読付き)

韓国の「母胎信仰」の形成と拡散 — その社会的・教会的要因 — … 金 潤貞

滝沢克己における回心理解

— ルイス・R・ランボウの研究方法论を基にして — … 高木 政臣

論 文

人身供犠を描くヘブライ語聖書物語における共通点と特徴

— 創世記22章、士師記11章、列王記下3章の比較研究 — … 岩崎 大悟

使徒言行録におけるμετάνοιαの授与

— 使5:31と11:18の釈義的研究 — … 木原 桂二

牧会書簡における神とキリストの関係 … 樂満 大樹

Wholenessの視点から見る霊的形成についての一考察 … 上田 直宏

実践神学における経験の問題に関する一考察

— 20世紀におけるドイツ語圏の実践神学と実証的展開を中心に — … 橋本 祐樹

研究ノート

ナジアンゾスのグレゴリオスにおけるθεία Φωνήの用例と用法 … 土井 健司

講 演

科学革命の英雄たちとキリスト教

— ガリレオ、ニュートンを中心に — … 芦名 定道

関西学院大学神学部内 神学研究会 TEL.0798-54-6207

■ 2021年度 大学院博士課程 前期課程修了者 論文題目並びに進路

| 氏名 | 題目 | 進路 |
|-------|--|---------------------------------|
| 薄井 良子 | J.プラスカウによるティリッヒの罪理解批判の再考—フェミニスト神学からの批判とその再評価 | |
| 金 仁恤 | コンテンポラリー・ワーシップ・ミュージックの神学的分析と今日的課題 | Blessing Church International |
| 阪口 選 | 神学としての民話 | 日本基督教団 <small>いさほや</small> 謙早教会 |
| 林 和広 | 神のいのちに与るために—克蘭マーの聖餐論— | 日本聖公会明石聖マリア・マグダレン教会 |

【2021年度卒業者】

■学 部: 学士30名(進路: 本学大学院神学研究科前期課程進学8名、企業等就職17名 ほか【2022年5月現在把握数】)

※主な就職先…(株)読売新聞大阪本社、三菱電機(株)、国家公務員(大阪税関)、明治安田生命保険(相)、第一生命保険(株)、(学)仁川学院 ほか

【2022年度学部・大学院入学者】

■学 部: 新入生 32名(日本基督教団教会所属: 2名)

■学 部: (3年次)編入学生 0名(日本基督教団教会所属: 0名)

■大学院: 博士前期課程 12名(日本基督教団教会所属: 9名)

■大学院: 博士後期課程 0名(日本基督教団教会所属: 0名)

2023年度 神学部・神学研究科入学試験ご案内

■ 2023年度 神学部入試日程

| | 入試種別 | 出願期間 | 試験日 |
|---------|--------------------------|------------------------|-------------------------|
| 総合型選抜入試 | 学部特色入試 (社会人、外国人留学生含む) | 9月 1日(木) ~ 9月 9日(金) | 10月 22日(土) |
| | スポーツ選抜 | 9月 1日(木) ~ 9月 9日(金) | 9月 24日(土) 10月 22日(土) |
| | グローバル入試 | 9月 1日(木) ~ 9月 9日(金) | 9月 24日(土) 10月 22日(土) |
| | 探求評価型入試 | 9月 1日(木) ~ 9月 9日(金) | 10月 22日(土) |
| | 編入学(3年次) | 10月 5日(水) ~ 10月 19日(水) | 11月 12日(土) |

■ 2023年度 神学研究科入試日程

<博士課程前期課程>

| | 出願期間 | 試験日 |
|--------|--------------------------------|-----------|
| 一 般 | <第1次> 8月 22日(月) ~ 8月 29日(月) | 9月 7日(水) |
| 社会人 | <第2次> 2月 8日(水) ~ 2月 15日(水) | 2月 24日(金) |
| 外国人留学生 | | |

<博士課程後期課程>

| | 出願期間 | 試験日 |
|--------|-----------|-----------|
| 一 般 | 2月 8日(水) | 2月 24日(金) |
| 外国人留学生 | 2月 15日(水) | 2月 25日(土) |

入試情報詳細は以下のウェブサイトから確認ください。

- ◆神学部 <https://www.kwansei.ac.jp/admissions/>
- ◆神学研究科 <https://www.kwansei.ac.jp/graduate/admissions/>

【お問い合わせ先】

関西学院大学神学部 入学センター
Tel.0798-54-6200
Tel.0798-54-6135

第39回 関学ユースキャンプ on キャンパス ご案内

日 時 2022年8月6日(土)10:00~17:00
場 所 関西学院大学神学部 上ヶ原キャンパス(オンラインも可)
※COVID-19の収束が見えない中のキャンプであるため、今年度は1日のプログラムを計画しております。

主 題 「今がすべてではない」
主 題 聖 句 コヘレトの言葉3章11節
「神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられる。それでもなお、神のなさる業を始めから終わりまで見極めることは許されていない。」

講 師 美濃部 信まこと(日本基督教団 甲子園二葉教会 牧師)
参 加 費 対面参加2,000円(昼食含) / オンライン参加1,000円
申 込 先 kgyouthcamp2022@outlook.com 家山 華子
〒562-0005 大阪府箕面市新稲3丁目9-2
日本基督教団みのお箕面教会内 FAX.072(721)3287



美濃部 信 講師

私は、関西学院大学神学部で学ぶ前年に、関学ユースキャンプの前身、献身キャンプに参加しました。それまでの学生生活では、聖書やキリスト教について、また人生について深く話す機会はあまりなかったのですが、献身キャンプに来て様々なテーマで自由に話し合えたことを今でも覚えています。コロナ禍で宿泊できないのが残念ですが、普段の生活の中では話せないことを皆さんが考えられるような時になればと願っています。
(講師より)



『関西学院大学神学部ブックレット14:宣教とパンデミック』

(キリスト新聞社、2022年1月)



2021年2月、新型コロナウイルス拡大から約1年が経過した時点で行われた第55回神学セミナーの記録です。神学部からは中道基夫が実践神学、小田部進一が歴史神学の立場から講演したほか、大学院生によるオンライン礼拝の工夫も紹介されています。現場からは兵庫県内のさまざまな教会の教職が、それぞれの教会での取り組みを報告し、また神学部の橋本祐樹と討論しました。今後の教会のあり方に光を照らす一冊です。

浅野 淳博 著

『死と命のメタファ:キリスト教贖罪論とその批判への聖書学的応答』

(新教出版社、2022年3月)



「キリストは人類に代わって罪を背負い、いけにえとして死んだ」という代理贖罪の表現はどこまで適切か。少数者に犠牲を強いる「犠牲のシステム」をキリスト教神学が内包しているとする哲学者・高橋哲哉の議論を批判的に捉えて、聖書が伝えるキリストの死の意味を探り、その意味をいかに語るかを方向づける。

浅野 淳博 共著 *The Oxford Dictionary of the Christian Church*

(4th ed. Oxford:Oxford University Press, 2022)



世界的に伝統と権威を誇る『オックスフォード・キリスト教大事典』の第四版。著者はKanzo Uchimuraの項目を担当。

N.T.ライト 著 『すべての人のためのローマ書I』

浅野 淳博 訳

(教文館、2021年7月)



英国の新約聖書学を代表するライトの新約聖書講解シリーズ第1弾の翻訳。ローマ書1-8章の講解。

芦名 定道 著 『脳科学とキリスト教思想』(三恵社、2022年3月)



脳科学は、今や現代社会の注目テーマであり、キリスト教思想との関わりにおいても、最もホットな話題の一つです。本書は、私がこのテーマについて過去15年ほどの間に書きためてきた研究論文を収録した論集です。脳科学の動向を個体脳研究(1980年ごろから2000年ごろまで)から社会脳研究(2000年ごろから現在まで)への展開としてまとめた上で、キリスト教思想との関係を論じています。

芦名 定道 共著 『学問と政治』(岩波新書、2022年4月)



本書は、2020年10月に発生した日本学術会議問題で、会員任命拒否された6名の研究者が、日本学術会議問題をもとにして、現代日本の学問と政治をめぐる諸問題へと切り込んだ論集です。「世界」(2021年12月)の特集「学知と政治」をもとに加筆などがなされていますが、私の論考「ポスト真実の政治状況と人文知」では、聖書をはじめキリスト教思想に関わる議論もかなり盛り込んでいます。

斎藤 宗次郎 『復刻・DVD版 内村鑑三先生の足跡』

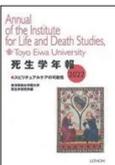
見玉 実英・岩野 祐介 編著

(教文館、2022年2月)



本書は内村鑑三の弟子、斎藤宗次郎が、内村の文章、日記、手紙などの引用を連ねて内村の生涯を描き出したものです。年代順に内村の誕生(1861年3月23日)から永眠(1930年3月28日)まで、そして葬儀など死後の事柄が斎藤自身による挿絵、地図も添えて示されています。書物部分は主に目次と解説であり、本文はDVDに収められています。よって、膨大な分量を全ておさめ、斎藤による挿絵、また手書き文字をカラーで味わうことができます。

土井 健司 共著 『死生学年報2022』(リトン、2022年3月)



昨年に依頼を受け、執筆した論考「キケロとレオー一世-人間の尊厳の最古層を尋ねて」が掲載されています。通常「人間の尊厳」という概念は、古代ローマのキケロに遡るとされていますが、彼のテキストを綿密に考察した結果、その尊厳概念はむしろ社会的地位を述べたものが大半で、「人間の尊厳」に該当する言葉もなく、通説は誤読によるものであること、そしてこの概念は5世紀のローマの司教レオー一世に見いだされることを論じました。

2021年度秋学期(9月~3月)
神学部日誌

- 9/21 学部・大学院秋学期授業開始
- 9/25 神学基礎テスト
- 10/12 神学部学術講演会(芦名 定道 教授)
「科学革命の英雄たちとキリスト教—ガリレオ、ニュートンを中心に—」
- 10/16 学部特別選抜入学試験
スポーツ選抜入学試験(2次)
- 10/27 神学研究会(中道 基夫 教授)
- 11/6~7 新月祭
- 11/11 教会と神学部の集い(神学部後援会主催)
- 11/24 神学研究会(土井 健司 教授)
- 12/ 4 総合選抜(2次)入学試験
指定校・協定校推薦入学試験
- 12/15 神学部クリスマス礼拝
- 12/28 第23回キリスト教教育研究会
- 1/ 6 ディアコニア・プログラム発表会
- 1/18 秋学期授業終了
- 1/26 神学研究会(橋本 祐樹 准教授)
- 2/ 1~7 一般入学試験
(全学日程/学部個別日程/共通テスト併用・英数日程)
- 2/ 9 修士論文口頭試問
- 2/14 一般入学試験合格発表
(全学日程/大学入学共通テスト利用入学試験1月出願)
- 2/17 一般入学試験合格発表
(学部個別日程/共通テスト併用・英数日程)
神学部プレスチューデント・プログラム
- 2/21 第56回神学セミナー
- 2/25 大学院博士課程前期課程(2次)入学試験
- 3/ 2 神学研究会(神学研究科後期課程報告会)
- 3/ 3 大学院博士課程前期課程(2次)入学試験合格発表
- 3/ 8 神学部講師(2022年度授業担当者)FD研修会
- 3/ 9 新卒教会赴任予定者オリエンテーション
神学部後援会伝道者育成奨励金授与式
- 3/10 神学生出席教会の牧師との懇談会
- 3/11 3.11東日本大震災記念礼拝
- 3/16 秋学期大学院学位記授与式・修了礼拝/修士(神学)4名
- 3/18 秋学期大学卒業式・卒業礼拝/学士(神学)30名
- 3/19 オープンキャンパス模擬授業(小田部 進一 教授)
「キリスト教はベストとどう向き合ったのか?」

※所属・役職等は行事開催時のものです。

クルト・ノヴァク 著 『評伝 アドルフ・フォン・ハルナック』

加納 和寛 訳

(関西学院大学出版会、2022年3月)



ハルナックは19-20世紀の転換期に活躍した歴史神学者であり、ドイツの文化・教育行政に参与し、ベルリン国立図書館改革、マックス・プランク学術振興協会創設、女子中等・高等教育の充実化などを牽引しました。晩年にカール・バルトに激しく批判されたため、20世紀半ばには忘れ去られていましたが、現在再注目されつつあります。本書は日本における初のハルナック評伝となります。

土井 健司・村上 みか・芦名 定道・島田 由紀 監修

『キリスト教神学命題集:ユスティノスからJ.コーンまで』

(日本基督教団出版局、2022年3月)



神学部の芦名定道、同志社大の村上先生、青山学院大の島田先生の四人で監修したもので、主要な神学者の基本命題を網羅し、その歴史的背景や解題などを執筆したものです。執筆は、監修者を含め、それぞれ専門家に依頼しています。命題を選ぶことで、それぞれ神学者の言葉に触れることができ、また丁寧に記された解説から基本思想を学ぶことができます。ところで、カバーに記されている肖像からどの神学者かがわかるでしょうか。